

# 辻よし子と歩む会

## 政治はもっと身近

### じゃなくっちゃ!

日ごろ遠くに感じてしまいがちな政治。でも、政治は、私たちの暮らしにとって重要なことが決まっていける場です。「えっ、なんでこうなったの?」とならないよう、私たちはもっと政治のことを知らなくては……。そのために、まずは市民の立場から市政の情報をわかりやすく発信する草の根市議が必要です。



## 政治にもっと女性の声を

社会の半分は女性。なのに議会における女性の割合は驚くほど少ないのが現状です。(グラフ参照)

子どもやお年寄りが暮らしやすい、やさしい街を創るためには、女性の視点も欠かせません。

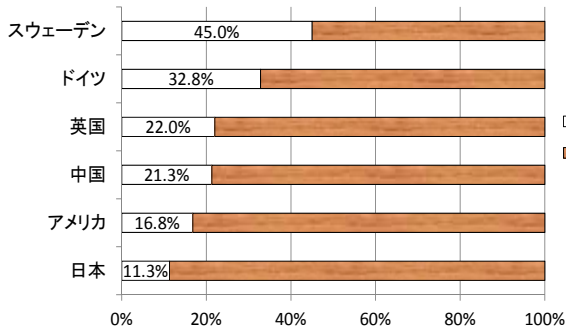


♥自然豊かなあきる野の環境を生かし、子どもたちが自然と触れ合い、のびのびと遊べる場づくり。

♥母親が安心して子どもを預けられる充実した保育システム。

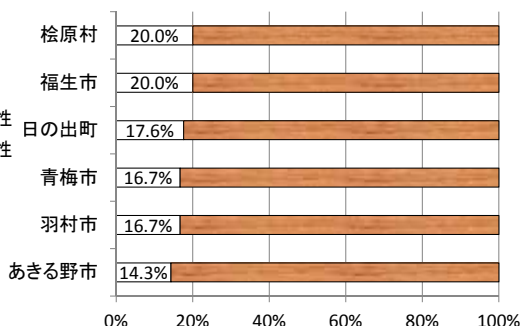
## へえ～こんなに少なかったの?

国会議員の男女比 (下院または一院)



社会実情データ図録 HP より抜粋

西多摩の市町村議員の男女比



「くさしぎ」作成

♥お年寄りが買い物しやすい、身近で顔の見える商店の存続と再生。

♥女性や社会的弱者が施策に参加できるしくみづくり。

……など。

女性ならではの施策を!

## 原発のない、のびやかな社会を子どもたちに



原発は、便利さや利益ばかりを求める大量消費社会の象徴と言えるかもしれませんが、経済成長を追い続けるのではなく、身近な自然や「いのち」の繋がりを大切にできる社会へ……「豊かさ」のものさしを見直しませんか?

都内において森林や農地が多く残されたあきる野市には、多くの可能性が秘められています。

### 辻よし子から一言

初めまして、辻よし子です。あきる野に暮らし始めて、今年で18年。あきる野で生まれた二人の息子は、中3と小5となりました。

3.11が私の大きな転機になりました。なぜ市政に関心を持つようになったのか、ぜひ裏面を読んでください。



(討議資料)



一步前へ

小さくてもいい、弱くてもいい、新しい政治の力の一つになることで、3.11の時代を生きる大人としての責任を果たしたい思います。



3.11以降、私たちは大きな選択を迫られています。「考えても仕方がない」「なんとかなるさ」と言い訳をして、3.11以前の「日常」に戻るのか。それとも、放射能汚染の深刻さから目を逸らさず、原発事故を引き起こした日本社会のゆがみに目を向け、「なんとかしなければ」「何ができるのだろう」と考え続け、行動するのか。そこには3.11以降の時代を生きる大人としての責任と、生き方の倫理が問われているといっても過言ではありません。

3.11の悲惨な原発事故によって、私たちははっきり気づきました。(中略) 政治に対し、不信感・無力感だけを募らせ、「政治を放置しすぎていた」こと。

3.11原発事故により、たくさん子どもたちが被曝し、これから先もずっと放射能汚染地帯で生きることを強いられる結果になりました。今後、放射能による被害がどのように現われ広がっていくのか、まだその実態は分かりません。(中略) 経済を優先させる非人道的な政治に代わって、社会全体で子どもたちを守るためには、新しい政治の力が必要です。小さいもの・弱いものに寄り添う政治、子を思う親の思いを汲み取る政治にするためには、小さく弱い立場にある私たち市民一人一人が政治に参加することです。

今まで政治を外から見ていただけの市民が、政治に参加するには、少しばかりの勇気が必要かもしれません。しかし、その一步を踏み出さない限り、永遠に傍観者のままで政治の力になることはできません。小さくてもいい、弱くてもいい、新しい政治の力の一つになることで、3.11の時代を生きる大人としての責任を果たしたい思います。

私たちにとって、一番身近な政治の場は市町村議会です。まずは、そこに自分たちの力を発揮できる場をつくり出したいと思います。それはつまり、私たちの声を直接届けるための代表、市民派議員を送り出すことです。(中略)

ここで肝心なことは、みんなで勉強することです。一人がエキスパートになって、回りがその人を応援するのでは、本当の意味で市民の力を結集することはできません。小さくても弱い市民の力を大きな政治の力へ変えるためには、みんなで勉強し、一人ひとりが議会の仕組みを知り、自分の生活と具体的な接点を持つこと。(中略)

どれだけ有能で魅力的な議員が出せるかで力の大きさが決まるのではなく、どれだけ多くの市民が綱引きに参加するかで、力の大きさが決まるのです。一人だけで頑張るフルマラソンではなく、みんなで力を合わせて走る駅伝でいきましょう。(後略)

2011年10月11日 辻淑子



福島原発事故で明らかになったように、この国の政治は、住民の思いとかけ離れたところで行われています。それは、私たちが政治にかかわることを避けてきたツケなのかも知れません。「くさしぎ」の私たちは、市民が主体的に政治に参加するという意識で市議会を傍聴し、学習会を重ねてきました。今後も、市民とともに考え、進める市政の実現を目指し、辻さんと一緒に行動していきます。(「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」佐橋京四郎)

「くさしぎ」は辻よし子さんを応援しています。



1960年 国分寺市生まれ。大学院卒業後、小学校の教員に。子どもたちと畑を耕したり、子豚を学校に連れてきたり、ユニークな教育実践をおこなう。

タイの村の子どもたちとの出会いをきっかけに、2年間個人ボランティアとしてタイの農村へ。帰国後に結婚。日本とタイを行き来しながら、教育をテーマに交流活動に取り組む。

1995年、あきる野市へ転入。1997年、長男の出産を機に日本での生活に比重を移す。近隣の母親たちと子育てグループ「野戯の森」を作り、大澄山や平井川で自然遊びをおこなう。

♡  
♡  
♡  
♡  
辻よし子プロフィール  
♡  
♡  
♡  
♡  
♡

2000年、友人たちと「川原で遊ぼう会」を立ち上げ、平井川で自然観察会と環境保全のための活動を始める。

2011年、福島原発事故に衝撃を受け、「さよなら原発〜にしたま〜」、「チャイロのネット(放射能汚染から子どもを守るあきる野ネットワーク)」を立ち上げ、活動を始める。

2002年～2012年 老人介護施設で働く

2000年～ 現在 平井川流域連絡会委員

2009年～ 現在 あきる野市自然環境調査員

<著書>

絵本『季節はめぐる ～3.11後を生きる里山のくいのち>たちへ～』

(2012年 「戦争と性」編集室)

『タイ教師と見た夢の国ニッポン』

(1994年 ビジネス社)

『ネイチャーゲーム原典 シェアリングネイチャー』(共訳) (2012年 日本ネイチャーゲーム協会)

辻さんからの手紙をきっかけに、「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」が発足しました。